

京都府環境審議会廃棄物・循環型社会形成部会 議事要旨

1. 開催日時 令和2年2月12日(水曜日)午後2時から4時まで
2. 場所 ホテルルビノ京都堀川 ひえいの間
3. 出席者
 - 【審議会委員】 黒坂委員、郡嶋委員、酒井委員、汐見委員、西村委員、長谷川委員、山崎委員、山田委員(計8名)
 - 注※ 上記のうち、次の委員は代理出席
 - 汐見委員(代理:西川事務局長)、長谷川委員(代理:八代循環型社会推進課部長)、山崎委員(寺井事務局長)
 - 【特別委員】 河本特別委員(代理:山根資源循環課長)(計1名)
 - 【事務局】 高屋府民環境部副部長、松山環境技術専門監、笠原循環型社会推進課長、その他関係課員
 - 【報道機関】 なし
 - 【傍聴者】 なし
4. 議題
 - 審議事項
 - 「京都府プラスチックごみ削減アクションプラン」(仮称)の策定について
5. 議事概要
 - (主な意見)
 - 骨子案1「使い捨てプラスチック(レジ袋、ペットボトル)削減」に対する意見
 - ・ レジ袋をごみ袋に使用することを許容している市町村では、レジ袋有料化になると新たにごみ袋を買う必要が生じる。ごみ袋の方が分厚いため、結局総量が増えるのではないか。
 - ・ レジ袋を減らす京都らしい取組として、風呂敷を取り入れてはどうか。
 - ・ マイボトルに給水できる場所をイベント実施時だけでなく、常設にするべきである。
 - ・ 給水スポット及びお茶やコーヒーなどを購入するとマイボトルに入れてくれる店舗等の認知度を上げる取組を行うべきである。
 - ・ 市町村別のプラスチックごみの排出状況について、市町村間で比較できるように1人当たりの排出量等を提示すること。

- ・ プラスチックごみ減量の啓発を市町村の実情に合わせて実施するべきである。
- ・ プラスチックごみ削減に関して府内市町村が共通認識を持った上で、市町村間で取組状況に差があるので、府のサポートにより底上げをお願いしたい。

○ 骨子案2「プラごみの3Rプラス推進」に対する意見

- ・ 事業者への支援事業について、現状以上に周知できるように工夫が必要である。
- ・ 産業振興に繋がられるよう、ペットボトルを繊維として利用する地場産業等と連携してはどうか。
- ・ 事業者には再生製品使用を推奨し、周知するべきである。
- ・ 事業者に対する支援の判断材料となるような基礎的な抽出調査の実施について、アクションの1つとしてプランに加えるべきである。

○ 骨子案3「海洋プラスチック等海岸漂着物対策」に対する意見

- ・ 漁具等海のごみを持ち帰るとインセンティブを与える仕組みを考えるべきである。
- ・ レジ袋の有料化による収益を基金化し、海岸漂着物の回収などに活用するべきである。
- ・ 各排水口から流れた水がどの川を流れてどこの海までいくのか、府民が認識できるように啓発を行うべきである。
- ・ マイクロプラスチックを減らすための啓発を行うべきである。

○ その他の意見

- ・ 施策の達成目標の設定は、アクションプランの中で取組めるものについては京都府循環型社会形成計画の改定に先行して行うべきである。

6 その他

今回は3月開催し、年度内にプランを策定する予定。